

作成日: 2011年2月9日

改訂日(V.2): 2011年6月13日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名: **アブライフェルテラ粒剤**

会社名: 日本農薬株式会社
 住所: 〒103-8236 東京都中央区日本橋 1-2-5 栄太楼ビル
 担当部門: 環境安全部
 TEL. 03-3274-1887, FAX. 03-3281-5462
 e-mail: kankyuanzen@nichino.co.jp

休日の連絡先: 04-2929-8961 (ALSOK)

用途及び使用上の制限: 農薬(殺虫・殺菌剤)、農薬登録以外の使用は不可

MSDS番号: 501-147(M10-24)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	自然発火性固体	区分外
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2B
	皮膚感作性	区分外
	発がん性	区分1
	特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器系)
	特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器系、腎臓)
		区分2(肝臓)
環境に対する有害性	水生環境有害性(急性)	区分1
	水生環境有害性(慢性)	区分2

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
 眼刺激
 発がんの恐れ
 臓器(呼吸器系)の障害
 長期にわたるまたは反復暴露による臓器(呼吸器系、腎臓)の障害
 長期にわたるまたは反復暴露による臓器(肝臓)の障害の恐れ
 水生生物に非常に強い毒性
 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き

【予防策】

- 使用前に取扱い説明書を手に入ること。
- 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
- 指定された個人用保護具を使用すること。

- 粉塵、ガスを吸入しないこと。
- 取扱いの際には飲食または喫煙をしないこと。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 必要な時以外は環境への放出を避けること。

【対応】

- 暴露またはその懸念がある場合、医師の診断を受けること。
- 気分が悪い時は医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続ける。眼の刺激が続く場合は医師の診断を受けること。
- 漏出物を回収すること。

【保管】

- 容器を密閉して、涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物、容器を法、条例等に従って安全に処理する。または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

その他の危険有害性：特に無し。

3. 組成, 成分情報

単一製品・混合物の区分：混合物

有効成分化学名(一般名)：

- 1) 3 - ブロモ - N - [4 - クロロ - 2 - メチル - 6 - (メチルカルバモイル) フェニル] - 1 - (3 - クロロピリジン - 2 - イル) - 1H - ピラゾール - 5 - カルボキサミド
(一般名 クロラントラニリプロール)
- 2) 3' - クロロ - 4, 4' - ジメチル - 1, 2, 3 - チアジアゾール - 5 - カルボキサニリド
(一般名 チアジニル)

成分及び含有量：

成分	含有量	CAS No.	安衛法 No.	化審法 No.
クロラントラニリプロール	0.75%	500008-45-7	—	—
チアジニル	12.0%	223580-51-6	8-(7)-1324	—
<その他>				
シリカ(非晶質、結晶質)	40.0%	7631-81-9	既存物質 安衛法通知対象物	(1)-548
樹脂、鉱物質微粉等	残	—	—	—

4. 応急措置

眼に入った場合：直ちに清浄な流水で数分間洗浄する。眼球、まぶたの隅々まで水がよく行きわたるように洗う。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合ははずし、その後も洗浄を続ける。異常がある場合は医師の診断を受ける。

皮膚に付着した場合：汚染された着衣、靴等を速やかに脱がせ、付着部を多量の水と石鹼でよく洗浄する。異常がある場合は、医師の診断を受ける。

吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所へ移し安静に保つ。異常がある場合は医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合：口の中をすすぎカップ1～2杯の水を飲ませ、医師の診断を受ける。意識の無い時には口から何も与えてはならない。

5. 火災時の措置

消火時の注意： 消火活動には適切な保護具(自給式空気呼吸器等)を着用し、風上から作業する。加熱されることによって刺激性又は有害なガスが発生する恐れがあるので、高温により発生するガス、煙、ミストを吸い込まないように注意する。消火水が下水や河川等の水系に流れ込まないように適切な処置をとる。

消火剤： 水、粉末、泡沫、炭酸ガス
使ってはならない消火剤： 情報なし。

6. 漏出時の措置

付近の人を風上に避難させ、漏出現場への立ち入りを禁止する。適切な保護具(保護衣、保護メガネ、保護マスク等)を着用して、眼や皮膚に触れたり、粉塵やガスを吸い込まないようにする。漏出物を密封できる容器に回収する。その後、汚染された場所を水で洗う。漏出物や洗浄水等が河川、下水等に流出し、環境へ影響を与えないように措置する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い： 局所排気装置等適切な換気装置の下で取り扱う。適切な保護具を着用し、粉塵やガスを吸い込んだり、眼、皮膚に触れないようにする。作業後はすみやかに眼、手、顔を洗い、うがいをする。

保管： 容器を密閉し、換気の良い冷暗所に保管する。食物、飼料等と離し、無関係者、子供の手の届かないところに施錠して保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策： 局所排気装置を設ける。取扱い作業場の近くに洗眼、洗面、安全シャワー設備を設置する。

個人保護具： 状況に応じた適切な保護具を着用する。
防塵マスク、保護衣(不浸透性)、ゴム手袋等
作業時に使用していた衣類等は他のものと分けて洗濯する。

9. 物理的及び化学的性質

外観、臭気： 類白色細粒
比重： データ無し。
pH： 6.0~7.0/20℃(1%水懸濁液)
引火点： データ無し。
自然発火性： 常温で空気と接触しても自然発火しない。

10. 安定性及び反応性

安定性： 通常の実験条件では安定。
危険な反応： 知られていない。
有害な分解物： 知られていない。

11. 有害性情報

急性経口毒性： ラットLD₅₀値(mg/kg) ♀ >2000(中毒症状および死亡例無し)
急性経皮毒性： ラットLD₅₀値(mg/kg) ♂, ♀ >2000(中毒症状および死亡例無し)
皮膚刺激性： ウサギ 刺激性なし
眼刺激性： ウサギ 中等度の刺激性(6日後までに回復)
皮膚感作性： モルモット 陰性
発がん性： 区分1Aに分類される結晶質シリカを30.7%含有し、カットオフ値以上であることから区分1とした。毒性未知成分量は68.5%。

特定標的臓器毒性(単回暴露)

区分1(呼吸器系)に分類される結晶質シリカを30.7%含有し、カットオフ値である10%以上であることから区分1(呼吸器系)とした。毒性未知成分量は69.3%。

特定標的臓器毒性(反復暴露) :

区分1(呼吸器系、腎臓)に分類される結晶質シリカを30.7%含有し、区分1のカットオフ値以上である。区分1(呼吸器/吸入暴露)に分類される非晶質シリカを、区分2のカットオフ値である1%以上/10%未満含有する。また区分2(肝臓、腎臓)に分類されるチアジニル原体を、区分2のカットオフ値である10%以上含有する。これらのことから、区分1(呼吸器系、腎臓)、区分2(肝臓)とした。毒性未知成分量は47.4%。

12. 環境影響情報**水生環境有害性(急性) : 区分1**

コイ	LC ₅₀ 値/96hr(mg/L)	1000	
オオミジンコ	EC ₅₀ 値/48hr(mg/L)	0.031	
緑藻*	ErC ₅₀ 値/0-72hr(mg/L)	19	* <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i>

水生環境有害性(慢性) : 区分2

慢性区分に分類される成分含量及びそれらの毒性値から推定し区分2とした。毒性未知成分は77.3%。

13. 廃棄上の注意

法、条例等に従って安全に処理する。または産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。
空容器 : 内容物を使いきった後、適切に処理する。

14. 輸送上の注意

容器に異常の無いことを確かめ、転倒、落下しないように積載する。

15. 適用法令

農薬取締法

労働安全衛生法

通知対象物(法57条の2) : シリカ(政令番号312)

16. その他の情報

参考文献 : JIS Z 7252: 2009, GHSに基づく化学物質等の分類方法

本データシートの記載内容は、この製品の取扱い時の安全性に関する参考情報であり、安全性や品質の保証をなすものではありません。また危険性、有害性の評価は、必ずしも充分ではありませんので、取扱いには充分注意を払って下さい。